SHIRAYURI YOCHIEN げんき 24号 10月9日

個人懇談が始まります！　10月22日（木）・26日（月）・27日（火）・28日（水）・29日（木）

年少・中・長児のご家庭は、上記日程で「個人懇談」を行います。すでにそれぞれのご家庭の日程を調整させていただいております。

ひと家庭 15 分という限られた時間ではありますが、幼稚園とご家庭が、お子さんの成長を一緒に振り返り、これからの育ちをともに考える大切な時間にしたいと考えています。教師からは、幼稚園でのお子さんの様子や、友達との関わり、日々の活動の中で見られた成長、今後さらに伸ばしていきたい力などをお伝えします。年長児については、就学に向けて大切にしていきたいことについても共有させていただきます。

また、保護者の皆様からも、ご家庭でのお子さんの様子、成長を感じていること、最近気になっていること、子育ての中での悩みやご相談などを、ぜひお聞かせください。

幼稚園で見せる姿と、家庭で見せる姿は必ずしも同じではありません。その両方を知り、園と家庭が情報を共有することで、お子さんの今の育ちをより深く理解することができます。

子どもの成長を支えるうえで、幼稚園とご家庭は大切なパートナーです。「できるようになったこと」は一緒に喜び、「これから育てたいこと」は一緒に考える… 短い時間ではありますが、園と家庭が同じ方向を向き、お子さんの成長をともに支えていくための有意義な懇談になればと思っています。

個人懇談日は“午前保育”になります。降園時間が２時間３０分早くなります。お間違いのないようご注意ください。

🎃🎃🎃今年も HALLOWEEN を楽しもう🎃🎃🎃

10 月 29 日（木）は、幼稚園でハロウィンを楽しみます！　この日は、仮装して登園しても OK です。ディズニープリンセスや映画・アニメ・ゲームのキャラクター、定番のかぼちゃのお化けや魔女など… どんな姿の子ども達が登園してくるのか、今からちょっぴり楽しみです。

もちろん、仮装は決して強制ではありません！「帽子だけ」「ハロウィン柄の靴下」「小さな飾りをひとつ」「お家にあるグッズを持ってくる」など、ワンポイントだけでも十分です。**普段通りの服装での登園も、もちろん大歓迎です。**

幼稚園として大切にしたいのは、豪華な仮装コンテスト…ではありません（笑）

子ども達に「ハロウィンってこんな行事なんだ」と知ってもらい、いつもとは少し違う雰囲気の一日を、みんなで楽しく過ごしてもらうこと… それだけです。

新たに衣装を買ったり、夜なべして手作りしたりせず、保護者の皆様も無理のない範囲でご参加ください。

「頑張りすぎないハロウィン！」　子ども達と一緒に、楽しい一日にしたいと思います（笑）

今、育てるのは「自分の気持ちをコントロールする力」

最近の子育てでよく耳にするのは「子どもの主体性を大切に」「子どもの気持ちを尊重しましょう」という言葉です。もちろんとても大切なことですね。

しかし、「子どもの気持ちを尊重すること」と「子どもの要求を叶えること」が、少し混同されてはいないだろうかと感じることがあります。「まだ遊びたい」「これは嫌だ」「やりたくない」「あれが欲しい」「今すぐやってほしい」等々、幼児期の子どもが自分の気持ちを素直に表現することは、ごく自然なことです。その気持ちを「そうだね」「嫌だったね」「欲しかったね」と受け止めてあげることは大切ですが、気持ちを受け止めることと、要求を全て通すことは違いますよ。「もっと遊びたいね、でも今日はここまで」「欲しかったね、でも今日は買わないよ」「嫌なのはわかるよ、でも自分でやろうね」等々、こうしたやり取りの中で、子どもは少しずつ「自分の思い通りにならないこと」と付き合うことを覚えていきます。

幼児期の家庭内教育で大切にしてほしい力の一つが「自分の気持ちをコントロールする力」です。

「待つ」「我慢が必要な時に我慢する」「気持ちを切り替える」「約束を守る」「嫌なことでも必要なら取り組む」… どれも生まれながらにして身についている力ではありません。家庭での毎日の小さな経験を通して、少しずつ身につけていくものです。ところが、子どもが泣くから、怒るから、可哀想だからと、大人がいつも先回りをして不快なことを取り除いてしまえば、子どもは「自分の気持ちを自分で整える」という大切な経験をすることができません。

幼児期の甘やかしは、その場では大きな問題として見えないこともあります。でも甘やかしの影響はやがて「わがまま」「我慢ができない」になり、そして５年後１０年後１５年後に、非行・いじめ・不登校・引き籠りに繋がってしまうということは統計上かなり高い数字になっていることは事実です。

近年の研究でも、親の関わり方は子どもの自己調整力と関連し、また過度な保護や家庭での関わり方、感情や衝動を調整することの難しさなどは、将来の問題行動や学校への適応の難しさと関係する要因の一つとして指摘されています。

何でもしてもらえることが当たり前になると、「してもらった」という感覚を持つ機会も少なくなります。つまり「ありがとう」の気持ちが気薄になるということです。

「ありがとう」という言葉は単なる礼儀ではなく、**“自分は誰かに支えてもらって生きていることに気付く心”**です。感謝の気持ちと他者を思いやる行動には関連があるのです。だから家庭では、「できることは自分でする」「してもらったらありがとう」「家族（パパやママ）にも都合がある」「自分だけが一番ではない」等々、そんな当たり前のことを、当たり前として伝えていくことが大切なのです。

愛情はたっぷり… でも、なんでも思い通りにさせない！　子どもの気持ちは大切に… でも、大人が子どもの気持ちに振り回されない！「与える＝愛」とは限りませんよ！「与えない＝愛」の場合の方が多いことを忘れないでください！

主体性とは「好きなことだけを自分で決める力」ではなく、**「思い通りにならない時にも、自分の気持ちを整え、自分で次の行動を選べる力」**のことです。

本当の意味での「主体性」を、まず一番身近な家庭の中から育てていくことを大切にしてください。

自分の気持ちをコントロールする力がある子は、“親を大切にします！”“善悪の判断が自分でできます！”“人を愛します！”“人から愛されます！”